

コメ価格高騰に関する 米農業の現状と国の施策

山本左近の活動はこちら



H.P. YouTube Twitter Facebook Instagram

不屈の
三河武士

《やまもと・さこん》

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。42歳。豊橋南高校卒業。南山大学。11歳レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初

私が携わるさわらびグループでは、8年前から障害者支援施設「明日香」を中心に、自然栽培でお米づくりをしています。毎年、保育園児や地域の皆様と一緒に農作業を行っており、今年も先日、田植えを終えたところです。知識のない状態からスタートし、豊作・不作もありながらもなんとか継続しています。実際にお米づくりを行っていると、ほんの少しですが、生産者の皆さんのご苦労を実感します。

そこで、今回は、最近、聞かない日はない「コメ」の問題について、生産者の皆さまの視点も含め解説していきます。

《現状》

日本の食料自給率は37%。他方で、コメの自給率はほぼ100%。食料自給率に占める割合も大きく、日本人にとってコメは食料安全保障の要です。生産者側は目を向けると、コメ農家の平均年齢は71.1歳と高齢化。長引く米価の低迷で、収益が圧迫され、離農者は増え続けています。農地面積はピーク時の約7割となっています。

《米価はなぜ下がったか》

米価は、過去30年間下がり

続け、直近10年は横ばいで推移。この理由は、日本人の食卓の多様化によるコメ離れ、高齢化と人口減少により、コメの需要が下がり続けてきたことにあります。

コメは豊作になれば、供給が需要を上回り価格が下がり、生産者の事業継続は難しくなります。とはいえ、天候など様々な事由に左右されますので、毎年必ず一定量を作るということはできず、常に需要分だけを作る供給体制の構築は不可能です。そのため、国は、様々な施策を駆使しながら需給のバランスを保ってきました。

《米価の高騰はなぜ起きたか》

このような状況の中で、昨年8月、南海トラフ大地震の注意報が1週間続き、各家庭でお米の買いだめが起きました。その結果、絶妙な需給バランスの上に成り立っていたものが一気に崩れ、昨今のコメ価格の高騰が始まりました。また、総需要量に対して生産量が下回ったことも高騰を始めた原因だと考えられています。今年に入り、コメの価格は昨年の2倍以上に急騰。今、執筆時点では平均価格5kg4285円と過去最高価

格となっています。

《政府の対応》

小泉農林水産大臣は、政府備蓄米を素早い放出を指示。備蓄米がスーパーなどに並び始めています。農水省は、3月から7月にかけて備蓄米61万トンを出荷予定。備蓄量は約30万トンに減る一方で、補充の見通しは現在立っておらず、危機に備えた制度の土台が揺らぐとの声も聞こえます。また、備蓄米は玄米で保管され、精米作業が必要となることから、精米業者への依頼が殺到し処理が追いつかないのではとの指摘もあります。

コメ価格については、予断を許さない状況が続きます。政府と事業者、生産者が一丸となり、まずはお米を各家庭に確実に届けること、それとあわせ、米価がコメ農家にとって再生産可能な価格となり、食糧安全保障という観点からも、持続可能な農業となるように努めてもらいたいと思います。

前衆議院議員

山本左近

立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

コメに関する基本情報

日本のお米は→短粒種（ジャポニカ米）



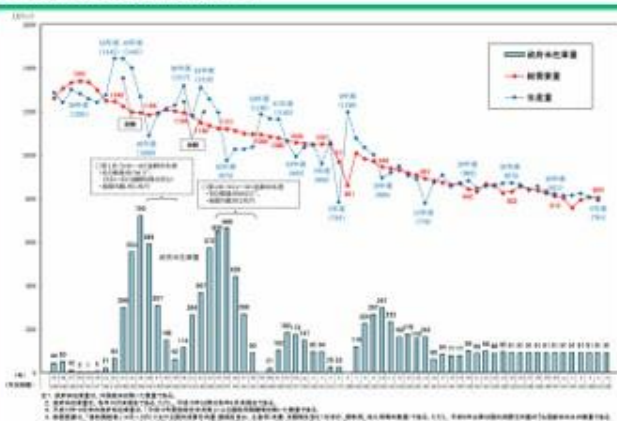
- ・日本のお米の起原は、中国が原産と言われる
- ・約3000年前の縄文時代から稲作が行われていた

長粒種（インディカ米）



- ・インディカ米は、世界で最も多く生産されているお米
- ・ジャポニカ米に比べ、細くて長い形
- ・主な生産地は、インドや中国南部、東南アジア、ブラジル、アメリカのメキシコ湾岸、中東諸国

米の全体需給の状況（昭和35年～）



昭和38年（1963年）総需要：1341万トン
をピークに、総需要は右肩下がり

→食の多様化、洋食化にともなう米離れ

→高齢者層のコメ消費の大幅な減

長期的な主食用米の価格の動向



過去30年間でコメ価格高騰が大きく社会問題化は、
→平成5年（1993年）と平成15年（2003年）

長期トレンドでは、下がり続ける需要に伴い、
コメ価格は下がり続けてきた

大規模農家と小規模農家で生産コストが倍近く違う
生産費が高止まりしている

米稲作単一経営の基幹的農業従事者の平均年齢
→71.1歳

5年後、10年後を見据えた議論を

再生産可能な適正価格が必要

図2 作付規模別の全算入生産費（令和4年産・個別経営体・全国、10a当たり）



資料：農水省「令和4年度米穀統計調査」
作成：山本左近事務所